

第5回臨時会（令和3年10月22日開催）

【開催理由】

坂下厚生総合病院建設負担金を今年度一括で支出するための過疎債の増額、令和3年産米価下落の影響を受けた農業者を支援するため稲作経営持続化支援補助金の交付、地方創生臨時交付金の追加交付、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を含む実施期間延長、過疎債発行にともなう一時借入金の増額を行うために開催されました。歳入歳出予算の総額に6億3,337万8千円を追加し、予算総額を84億7,428万2千円としました。

第6回臨時会（令和3年11月30日開催）

【開催理由】

福島県人事委員会の勧告に基づき、職員の令和3年度の12月期の期末手当を0.15月引き下げの1.1月、再任用職員については0.05月引き下げの0.625月、令和4年度以降については、引き下げた期末手当の年間支給割合を変更せずに、6月期と12月期の支給割合を均等とする内容です。本町では、期末手当の支給を受ける者のうち、会計年度任用職員と三役を除く職員162名が該当し、共済費を含め一般会計分で872万円、特別会計への繰出金を含めた額では947万2千円の減額となります。

行財政改革検討特別委員会答申書提出

10月27日提出

【諮問・答申内容】

諮問1：公共交通（交通弱者）についての対案づくり
安心安全な通学路や公共交通の確保、路線バスのみならず、町内タクシー会社を活用した利便性の向上、小・中学生の通学バス無料対象外である交通弱者支援の在り方について調査研究を行うこと。



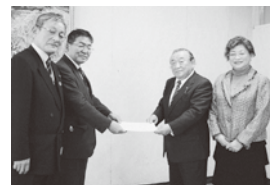
諮問2：町財政健全化への取り組みの進捗の検証
特定非営利活動法人スポーツクラブバンビィ、一般社団法人会津坂下町観光物産協会、株式会社社会津ばんげ公共サービスの3団体の統合・再編を含めた調査研究に取り組むとともに、議会として、今後も継続的に財政健全化に向けて調査研究していく必要がある。

議会改革特別委員会答申書提出

12月10日提出

【諮問・答申内容】

諮問1：議員報酬について
今は現状維持で良いが、議長報酬は今後も検討を継続すべき。



諮問2：常任委員会数減になったことによる弊害の検証
総務産業建設常任委員会は担当する課が複数あることで、多数の議案を能率的に処理する事が出来ない。

諮問3：議会先例集の検証

7つの項目について文言修正、再確認、削除を行う。

諮問4：政務活動費の検討

本町の人口規模類似団体で支出している議会は少ないが、議員・議会の質を高めるには必要と考える。

特別委員会としての提案

- ①議会モニター制度
- ②女性議会や子ども議会などの開催
- ③未来トークの改善と再開（住民との懇談会）

議会の新たな取り組み



声

みなさんからの

お待ちしています

第4回定例会（令和3年12月3日開会）から、議場入口にアンケートボックスを設置しました。コロナ禍の中で、町民の皆様と顔を合わせた懇談会が開催できずにいました。日頃から議会に対して思っていること、感じていること、要望など、どんな些細なこと何でも結構ですので、皆さまの声をお聞かせください。

県町村議会議員研修会



10月20日（水）とうほう・みんなの文化センターにおいて、早稲田大学マニフェスト研究所事務局長の中村健氏による「住民から信頼される議会になろう！」のほか、ジャーナリストの長谷川幸洋氏による「今後の政局・政治展望」について研修を行いました。「議会はこういうものだ」と刷り込まれていないですか？「住民の声を聴く」と言いますが、あなたが聞いている「住民とは誰」ですか？など、改めて考えさせられた研修でした。



無情にも 県立坂下高等学校 令和4年3月閉校

昭和29年4月に、福島県立会津農林高等学校より普通科を分離し、「福島県立坂下高等学校」として正式認可を受けてから、約70年余。「学修・礼節・鍛錬」を校訓として、今日に至るまで約11,300名の卒業生を送り出してきました。卒業生の進路先は、官公庁、政財界をはじめ様々な分野に優秀な人材を多数輩出し、地元の会津地域はもとより国内外において広く活躍されております。昭和57年に創立35周年記念式典、さらに平成30年には創立70周年記念式典を挙行了しましたが、時代の流れのなかで来年4月には現在の坂下高等学校と大沼高等学校が自治体をまたぐかたちにおいて統合されることが決定され、令和4年4月に、新たな「福島県立会津西陵高等学校」として誕生いたします。

去る11月24日には、3月の閉校に向けての記念式典が坂下高等学校体育館に於いて挙行されましたが、『坂高』の思い出は、町民の心の中に決して色あせることなく、これからも残っていくことでしょう。

「昭和、平成、令和」という大きな時代の推移のなか、坂下高等学校の過去・現在・未来について想いを馳せる時に、今後新しい時代に即した地域と共に歩む高等学校の誕生を心から期待するものであります。

当時はめずらしく校名をアルファベット表記
「BANGE HIGH SCHOOL」



開校当時の校舎



初の表札掲揚



現校舎

坂下高校統合に関する議会の取り組み

令和2年9月2日「県立高等学校改革における坂下高等学校・大沼高等学校の統合・再編について地域実態に合った統合・再編にするために継続協議を求める請願書」が県立坂下高等学校同窓会長の渡辺東助氏より提出（紹介議員 酒井育子、佐藤宗太）され、令和2年第3回定例会において、「県立高等学校改革における坂下高等学校・大沼高等学校の統合・再編について地域実態に合った統合・再編にするために継続協議を求める意見書の提出について」を議員提出議案として提出し全会一致で採択されました。

その後、令和3年2月19日付で県に対し、意見書に対するその後の状況について回答を求めました。同年3月17日付で県から回答を受けましたが、一部に事実と相違及び付記すべき事項の不記載が認められたため、同年6月1日付で、県に対し回答に対する申し入れ書を提出しました。

【申し入れ書の内容】

回答：「計画に前向きなご意見が多くあり、概ね御理解をいただいた」

→第2回県立高等学校改革懇談会において出席者は上記回答の事実はなかったと捉えています。

回答：「統合に対してご理解を頂けるよう、坂下高等学校同窓会に再編整備に関する説明会を開催し…（略）周知を図ってきたところです。」

→説明会では、紛糾した事実もあることから、その旨の記載も必要と捉えています。

みんなのひろば



塩谷 健さん
(中政所)

健康の在り
難さを

地区の老人クラブの方に誘われて町議会の傍聴に出かけて来ましたが、初めての経験でした。議員になるからには、各自それぞれに得意分野があり、それなりの研鑽を積んで自信有りと感じました。質疑応答も町長さんの答弁も分かりやすく、これなら今後の行政に期待できるものと皆さんの活躍に期待したいと思います。

健康と体力には多少なりとも自信を持っていた自分が、突然脳内出血で倒れたのは、令和元年11月末でした。それまでかかりつけ医の先生の指導を守らず、暴飲暴食を続けての結果に、「自業自得」とは言え、生命あるだけでも幸せと感じる毎日です。

早いもので発病して2年が経過し、左半身の麻痺も和らぎ、筋肉状態も戻りつつあるのかと思える時もあり、リハビリ運動は「継続は力なり」だと感じています。数日前からは、軽いジョグとジャンプができるようになり、登山、旅行、家庭菜園、ジョギング、料理など少しずつ挑戦し、夢を実現したいと思います。そして、2年間面倒を見てくれた妻には感謝の気持ちでいっぱいです。



宮田陽子さん
(新町)

SDGsに取り
組んだ店づくり

私はこれからの社会や未来を考えた時、SDGsは必要不可欠なものであると考えています。SDGsは持続可能な開発目標として17の目標を定めています。その中でも私が一番共感している項目は8番目の「働きがいも経済成長も」です。私は常々ボランティアには限界があるものと思っています。綺麗ごとだけでは続かない。それに伴う利益や経済成長がなければいつかは終わってしまう。」と感じていました。

SDGsは持続可能な社会にするための指針や目標を国家間の垣根を取り払い、未来の子ども達に美しいままの地球を譲り渡そうと考えられた地球規模の目標です。私はその目標に賛同し関わって行きたいと思い『焼き芋陽(はる)』をオープンいたしました。

次回定例会のご案内

令和4年第1回定例会は、3月3日(木)から3月16日(水)までの会期(予定)です。

一般質問は3月7日(月)、8日(火)午前10時開会予定です。

傍聴にぜひお越しください。傍聴の際はマスクの着用をお願いいたします。

表題字提供者

広報広聴特別委員会委員長

青木 美貴子

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大や自然災害など様々な事象により皆様の生活に大きな影響があり大変ご苦労された1年だったと思います。

コロナ禍により外食産業の米の需要が減少、物流の停滞などの影響により、本町の基幹産業である農業においても、米価の大幅な下落となりました。

一日も早く町民の皆さまの暮らしが元に戻る事を期待します。

本年は平穏な一年になる事を願い、皆様とともに議員一同前進して参ります。

(委員 目黒 克博)

広報広聴特別委員会

委員長 青木美貴子
副委員長 横山 智代
委員 目黒 克博
委員 蓮沼 文明
委員 小畑 博司